

刊夕六一月五

常警每日新聞

定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告料 五字一円 十字一円五角 二十字一円八角
 日曜 祭日の翌日 休刊
 日曜 祭日の翌日 休刊
 発行所 常警毎日新聞社
 印刷所 常警毎日新聞社

行から信へ

真繼 雲山

(一)
 信心に到るの方法としては、修行して佛に成る道もあり、佛様にお願ひ申して救はれる道もある。

修行の方は諸善萬行といつて、千も萬もの善いことをせねばならぬ。それも一日や二日では叶はず、三祇百劫といふて、生々世々何百萬年も続けねばならぬところがわれわれ凡夫はタツタ一つの善いことすらも三來ぬ出来てみることも、考へてみるのは悪いことばかり。

女房に相談の出来る内は、まだ上乗の部である。たま寄附金や何ぞの善いことの一つもすると、直ぐあとからそれによつて名譽を得たいといふ悪い虫がこびり着いてゐて仕末におへない。

萬行を約して六度とし六度のうちに諸善萬行ありとする六度とは布施あり、智慧にいたる六波羅密であるが世は世智つらからずともなか／＼施しの一行すら容易に出来るものではない。況んや、持戒忍辱をや。

ところが佛教は重寶な教へでさういふ下根の劣機は念佛せよといふ、念佛の一行

に諸善萬行は含まれてゐるといふのであるからなる程それなら便利である、誰でも南無阿彌陀佛くらゐなことも言ひ得るが稱へてみても救はれぬといふのは、信心がぬけてゐるからである。その信心は何うしたら得られるか。

ノート

訪問していきなり先方の在否をきくのは失禮先づ自分の姓名を告げ先方の在否を尋ねる

念佛を稱へたなら必ず往生疑ひなしといふのは浄土宗の説き方である、救はれたと思ふて自ら稱へるのであるから自力の念佛にあたる。信じたならば必ず救はれるそれゆゑ信せよといふのが

三明日の献立

- 【朝】すまし汁：ふき 竹の子
- 【晝】煎り印の花：卵の花 ねぎ みじん生姜
- 【晩】くずあんかけ：小芋 竹の子 さやえんどう うすくず めうがみじん

真宗の説き方である、念佛は無用にあらざるも信が條件であつて念佛はお禮心と

して自然に出る、そんなら出たり出なかつたりするのかもしれないに必ず出る、その念佛とは自分が稱へるのでなく佛様が稱へさせて下さるのであるから念佛が稱へられたらそれは阿彌陀様のお聲だ、救はれたる現の證據として喜べといふのであるから分析せずともこれは絶対他力の念佛となる。

常警 文藝

握るは日本

飯村 閑舟

四海めぐりて隆々と肥えていつも動かぬ大和の島根正義の剣かざせば光る燦と輝きひらひら光る光る日の丸握るは日本

四海めぐりてまづかに燃えていつも太陽は正義に照らす亞細亞門戸はわれ等が開くどんと開けばひらひら廻る廻る世界を握るは日本

横濱植木會社の
 春時草花種子が
 まいりました

種子は輸出向きの優良質
 植木會社の特撰品です

二丁目

西村藥局種子部

(草花種子の蒔き方) 差上ます
 球根、塊根類の御注文も御受けします

鹽豚
 肉蒲鉾

田町 三三三三屋

耳鼻咽喉科専門

入院 應需
 平町田七〇番地
 山内醫院
 醫學士 山内亨吉
 電話六九一

イヤ！ 君！
 いゝ冬服を求めたね
 断然三三年型だよ
 いやコレカネ！
 ……例の「ソレ」
 正礼堂



平四丁目停車場通電三六四

吉田眼科病院
 平野屋町、電話六八八番

是非御利用を

営業時間午後九時迄
 平町四丁目河岸通り

三井質店
 電話六〇六番

外科

専門線 X

上田外科病院

平町南町
 電話一二九番

只今迄三越金澤支店美容部主任として務めて居りましたが今度左記の場所に開業致しました
 當院獨特の斬新なる技術と優秀なる器具並に衛生設備の完全は皆々様の御期待に副ふこと、存じます
 宜しく御引立を賜り度く御願ひ申上ります

研美院

洋髪 高橋輝子
 主任 門根花

アメリカ式美顔術 和洋結髪
 シャンプー 毛染
 マニキュア 御婚禮化粧着附
 平町五番地

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)
 大和田醫院

解散した濱木炭

復活するか

縣當局の反對に出逢ひ

明日役員會で態度決定

濱三郡木炭同業組合では極力反對した縣管検査が愈々六月から實施となつた爲めこれが腹癢せに今度は縣が反對した組合の解散を六月から斷行する事になり過般の總會で決議し縣に對して四五二ヶ月間の豫算並に六月以降の精算事務に移る豫算と共に解散の同意を求めたが縣では三分の二以上の組合員の賛成を得ずして單に代議員會で決議しただけ

平商軍大勝

對磐中この劍道試合

磐城中等學校對平商業學校本年度第一回の劍道試合は三十日午後一時より磐中道場に於て大塚二段審判の下に行れたが戦績は左の如く十五對十にて平商軍大勝した

伊達	2	1	若松
安藤	2	0	大高
猪狩	0	2	山田正
會田	2	1	渡邊
蛭田	0	2	長谷川
草野	1	2	齋藤
三浦	0	2	郡司
作山	1	2	田仲
山形	0	2	草野
和田	2	1	山田

の報告及び在職二十五ヶ年勤績並に五ヶ年無欠勤者の表彰を行ひ終つて元東京高等師範學校教授川村理助氏の講演會を催す

酒井菊雄氏渡米

平南町酒井國三郎氏甥酒井菊雄氏は今回東京市衛生課より歐米視察を命ぜられ二

磐中平商共に惨敗

水鐵軍を迎へた

既報磐中及び平商對水鐵の野球戦は昨日午前十一時半より磐中グラウンドに於て行れたが兩校共振はず左の戦績で何れも惨敗した

水鐵	4	0	7	3	0	5	0	0	0	19
中	2	1	0	0	1	2	0	0	0	6
磐	6	0	0	1	9	0	4	20		
水	1	2	3	4	5	6	7			
平	0	0	4	0	0	0	0	0	4	

立候補のトツプ

石城郡入遠野村の村議選舉は来る八日執行されるが野田政道氏は去る廿九日逸早くも立候補の届出をなしてトツプを切つた

昨日の野球戦

好間青年總會 石城郡好間村青年團では来る五日午前十時より村役場に役員會を開き役員の改選を行ふと

佐々教諭赴任

縣高瀬高等女學校教諭に轉任された磐中教諭佐々國雄氏は明日平驛發午前四時四十分の上り列車にて赴任する

平町青年團總會

六日マルトモホールで

平町青年團では来る六日午後一時よりマルトモホールに於て總會を開き役員の改選及び各分團員の表彰を行ふが當日は會議終了後磐中校長小椋山久作氏の講演會を催す可く目下交渉中である

飯野消防で

道路の美化運動 石城郡飯野村消防組では来る十日午前十時より全員出動して村内各道路の清掃及

診療班第二次

診療日割決定

皮切りは鹿島村

平署駐在自動車診療班の第二次郡下町村診療は左の如く決定した

- 五月四日鹿島 五日箕輪
- 六日永戸 八日川部 九日貝泊 十日荷路夫 十一日石住 二十四日川前

關西の旅から

警女修學旅行團

今朝で京都ともお別れ。三日二夜の疲れを休めた大正館に別れを告げて最後の京都見學——東本願寺に到着。建築の壯大さには例の様に驚かされたが、可愛い鳩の戯れに見入り、京都停車場へと。

父惣吉儀病氣之處療養相叶はず四月二十九日午後六時死去仕候間此段辱知各位に謹告仕候 匆々

追て葬送の儀は五月三日午後二時自宅出棺 當村金臺寺に於て佛式により相替み可申候 昭和八年四月三十日

- 石城郡神谷村 嗣子 中野二郎
- 親戚 中野一衛
- 中野清治
- 井上茂作
- 佐藤久三郎
- 友次總代

び破損箇所の修理を行ふ筈 宿に歸り遅い晝食をなし奈良停車場へ行つた。鹿と奈良。印象的なこの光景。

古都奈良に相應しい鹿。約午後四時發二見ヶ浦へ車中の人となつた私たちは六時四〇分頃着いた。此所は賑かな都市ばかり歩いて来た私達に落着い氣分を味はせてくれた。

- △綿打工 二十五才 尋卒
- △印刷見習 十六才 尋卒
- △仕録小遣(平町某)
- △回人を求める方
- △自動車助手 十六才 高卒
- △給料面談(内郷村某)
- △雑夫 二十六才 尋卒
- △給料面談(内郷村某)
- △女中 三十六才 高卒
- △給料面談(長野縣某)
- △農銀治工 二十四才 讀書し得
- △給料面談(永戸村某)

縣下町村長大會

明日に迫る

知事以下五百余名一堂に参集

三日は平館で歓迎會

既報縣下町村長大會は明日三日の兩日平第三小學校講堂に於て開催赤木知事以下各町村長及び關係者五百餘名出席するが兩日の式順は左記の如く行はれ三日の閉會後には支會及び平町合同の招待會を平館にて開催する

二 日

△勅語捧讀△開會の辭△

知事告辭△郡支會長歡迎の辭△會務報告△優良町村吏員表彰△賞状授與式△來賓祝辭△受賞者謝辭△協議事項

三 日

△役員改選△全國町村長會主事副井清水氏講演△閉會

終つて平館で大歓迎會を催すとす

郡下小學校對抗

八百米繼走迫る

参加校早くも九校

既報來る五日磐中グラウンドに於て舉行される郡下各小學校児童對抗八百米リレーの申込み校は本日迄左の九校であるが昨年の優勝校は好間小學校にてタイムは二分十二秒であつたと

- (内郷第三)伊藤一郎 藤田正雄 齊藤義春 安齊次男(内郷尋高)鈴木友三 遠藤正清 高橋正次 鈴木國雄(勿來)鄭聖珏 井桁静夫 結城力雄 菅野柳正(平第一)阿部洪祐 關口靖夫 鈴木保光 佐藤喜一(平第三)西郡國人

若い漁夫の惨死

昨日江名沖合の出来事

石城郡江名町南町居住漁夫中西久吉(三)は昨日午前二時頃福石丸(四三噸)に乗込み同町沖合に出漁中強風を避難すべくモーターで錨の捲揚作業中誤つて錨に捲き込まれ胸部腸等を壓迫され瀕死の重傷を受け平町上田醫院にて治療したが同日午後八時絶命した

横たはつた

乞食體の變死體

入山礦社宅附近で發見

石城郡湯本町入山炭礦四坑社宅附近の道路に一見勞働者風の變死人あるのを通行人が發見届出たので平署員が検死したが乞食らしく住所姓名は判明しないと

明日の部

今夜は西の風や、強く晴明日北西の風晴

報豫氣天

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話と詩吟 米澤市東部尋常高等小學校訓導中村榮外
- 後七、三〇 講演「ジュネーブより歸りて」松岡洋右
- 後八、〇〇 「靖國神社大祭」土田稔 田邊孝男 片寄保吉

明日の部

- 前六、三〇 基礎ドイツ語講座(九)橋本忠夫
- 前九、一〇 料理献立「すしの二種」阿部やい
- 前一〇、三〇 家庭講座「鯉の料理四種」AK家庭係編輯
- 後〇、〇五 俚語
- 後二、〇〇 家庭大學講座「ロシヤ事情」(一)參謀本部支那班班長陸軍輜重兵中佐柴山兼四郎
- 後二、二〇 野球試合實況
- 前六、三〇 基礎ドイツ語講座(九)橋本忠夫
- 前九、一〇 料理献立「すしの二種」阿部やい
- 前一〇、三〇 家庭講座「鯉の料理四種」AK家庭係編輯
- 後〇、〇五 俚語
- 後二、〇〇 家庭大學講座「ロシヤ事情」(一)參謀本部支那班班長陸軍輜重兵中佐柴山兼四郎
- 後二、二〇 野球試合實況

高田伍長の遺族に

大日本消防協會から弔慰金

既報平署から消防殉職者として大日本消防協會に上申中であつた故平消防組伍長高田清一郎氏の遺族に對し本日大日本消防協會長山本内務大臣より弔慰金として二百五十圓を贈る旨の指令があつた

日立電力

石城郡川卓球試合 前村日立電氣會社第一對第二發電所對抗卓球戦は昨日午前八時より第一發電所球場に行われたが廿三對十九の成績で第二發電所が優勝した

判決所だより

△既報石城郡泉村生れ目下

定員一名超過の

鹿島村々議改選

貧乏籤を誰がひく?

鵜沼忠美

既報石城郡鹿島村の村議改選は明日行はれるが定員十二名に對して左記十三名が立候補し一名が落選の憂目を見る事になつておる

佐藤米治 鈴木傳 佐原良近 節崎弘之 四家重 雄 佐藤善太 高萩民雄 江尻中 鈴木一男 波立忠作 芳賀直義 赤坂稔

農會技術員會

團體事務所

石城郡農會では明日午後一時より團體事務所樓上に於いて郡下各町村農會技術員會を開備果樹類の共同出荷其他に就いて協議する

平窪青年の

石城郡平窪村青年團では本日の道路愛護デーに全團員が出動村内各道路の修理を行ひ更に道路愛護の宣傳を行つた

澤村神社例祭

石城郡草野村に鎮座する澤村神社の春秋祭典は今日並に明日に亘つて行はれるので同村青年團では餘興として活動及び花火大會を催す

判決所だより

△既報石城郡泉村生れ目下

義経の剣

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫

第三百二十五號

佐々木見山

觀世音に拜禮

佐々木見山は巾着切から十兩と一分と錢二百文取り上げ、それを此奴らに取られた商人の手代に與へ

佐『これにて宜しからう』

若『有難ふ存じます、こんなに澤山お金を頂いてはすみません』

佐『イヤ受取り置き、多い分には仔細あるまい』

若『左様でございますか、お嬢さん、この旦那様のお蔭で取られたお金が増えて戻りました』

と云はれて十六七になる美しい娘が

娘『オヤそう、これも觀音様の御利益でございます』

旦那様有難ふございます』

膝まで手を下げて叮嚀に禮を云ひました。これを見てゐた人々……何しろ場所が淺草の觀世音の境内、大層人が集つた

○『お侍さん、小僧は二三日前に二天門下で煙草入を盗られました、取つた奴はお前さんが押へ付けてる其奴に違えねえ、何卒取り戻しておくんさいまし、其の煙草入は叔父の遺物でございます』

佐『ウム然うかこれ泥、此

七年ばかり前しかも四萬六千日の日に財布を取られました、其中には錢は三百入つてゐました』

佐『大分古い口が出て来たな、サアサそれも戻してやれ』

巾着切はいよ／＼驚いて

佐々木に捉へられた腕を振り拂ひ、ばたばたと辨天山

の方へ駆けて行く。泥棒逃げたなと追ひ行く多數。三人の巾着切を押へ付け懐中

へ手を入れ財布を引き出し

た、巾着切は

泥棒と云つ

たがこん

者の煙草入を戻してやれ

△『そんな物を盗つた覚え

はございません』

佐『覺えないとは言はせん

ぞ、此の境内にて悪事を働

き居る其方共、提げ物

を取つたに相違な



い、品物がなくば價を聞いて支拂つてつかはせ』

△『これは驚いた』

佐『其他に盗られた者は居らぬか』

○『わつちもとられましてございませう、今から數へて

な間 違つた話

見山はこれを見て打ち笑ひ商人の手代と若い女に對ひ

佐『サ、只今の中に早く戻れ』

手『有難うございます、シテ旦那様は何方のお方でございませうか』

手『それは大變でございます、江戸のお屋敷は何方でございますか』

佐『イヤ屋敷を云ふ程のことあるまい、また禮をうける程の徳も施したことはない、サアサ戻れよ』

産土巾 貝焼と 千やあき

魚問屋

店理代平命生本日大最優最 榮 盛 賀 志 (三一電)目丁四平

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電一〇七

住んで居ります』

佐『ハ、竝に居るから名を虎と申すか、それは面白い、其の賊の手下が何で俺を見て行つたかな』

云ふと付いてゐた僕が

僕『先生大變な事が始まります、貴下が最前仁王門で巾着切をひどいめに會せましたから、其の仕返しをする積りで此處に貴下が居るを見に来たものでございませう』

佐『然うかそれは益々面白くなつて来たな、何百人押し寄せ参るとも片つ端より蹴散してくる、久し振りで俺の腕前を充分に揮ふことも出来るであらう、これ女酒を取つてくれ、彼等が押し寄せ参る迄に勇氣を付けて置くぞ』

貨切の●●●

御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……(マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

木炭代用この上のない經濟の 徳用な 豆 炭

壹袋正五貫目入金 八十錢也

御注文次第御届ケ申シマス

三丁目(電話六六三番) 磐崎屋酒店

一丁目(電話五九六番) 菅本武雄商店

白銀町(電話二九九番) 水野氷店

六丁目 矢吹石炭商店

平驛前(電話三七番) 阿部石炭商店

◎特約店募集致シマス